



10.21
2022
VOL.239

女子100mH 日本インカレで **日本一!**

田中 きよのさん

NISHI

全日本学生ラート競技選手権大会

総合優勝 赤坂さんにインタビュー

第36回 駿輝祭

リアル

&

10/
29

土

同窓会・父母会共催落語会 『柳家三三独演会』

- 会場** 第二講義棟 4階 7405教室
開場 12:30 **開演** 13:00 ~
出演 柳家三三(落語)、鏡味仙成(太神楽)
 センチネル(漫才)
その他 入場料無料、事前予約制です。
 詳細は駿輝祭のHPをご確認ください。



柳家三三



鏡味仙成



センチネル

10/
29

土

お楽しみステージ

- 会場** 屋外特設ステージ
時間 14:00 ~ 15:30
内容 動物あてゲーム
 へんなカンジ? どんないかん?
 ビンゴ大会

10/
29・30

土・日

縁日

参加費無料
景品付

- 会場** メディアセンター1階
時間 1日目 10:30~16:30
 2日目 10:30~15:00
内容 射的、輪投げ、缶積み

10/
29・30

土・日

フリー マーケット

- 会場** 中庭
時間 10:00 ~ 15:30
その他 雨天中止

10/
30

日

小林裕介トークショー

- 会場** 体育館2階 **出演** 小林裕介
開場 13:15~ **開演** 14:00~
その他 観覧にはチケットの事前登録が必要となります。
 詳細は駿輝祭のHPをご覧ください。



小林裕介

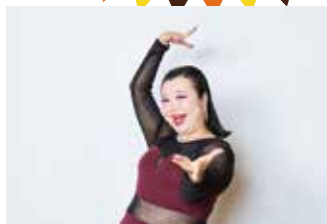
アニメ『Re:ゼロから始める異世界生活』ナツキ・スバル役や、『Dr.STONE』千空役など数多くのアニメに出演されている小林裕介さんによるトークショーです。

10/
30

日

爆笑お笑いライブ

- 会場** 屋外特設ステージ
時間 17:00~(※駿輝祭フィナーレ内)
ゲスト ゆめちゃん、カナメストーン
 きしたかの



ゆめちゃん



カナメストーン



きしたかの

その他イベントも目白押しです。ぜひご参加ください。

第36回駿輝祭HP



オンライン

開催

今年度
テーマ

コネクト
『Connect』

Connect (コネクト) には、繋ぐ・繋ぎ合わせるという意味があります。今年度は大学にご来場できない方々も楽しく参加していただけるようにオンラインでの生配信も行い、遠く離れた多くの方々とも繋がりたいという思いからこのテーマに決めました。

運営スタッフに直撃インタビュー

駿輝祭実行委員に開催前の想いや見どころについて聞きました。

委員長

嶋田 敬介さん
経済経営学部3年
(つくば国際大学
東風高校出身)



私たち駿輝祭実行委員会は今年度総勢100名を超え、日々駿輝祭に向けて活動しています。

新型コロナウイルスの影響により、一昨年度は開催できず、昨年度はオンライン配信での開催になりました。そして今年度第36期は2年ぶりに改めて対面で行う復帰の年となっています。また、感染対策ということで会場には人数制限を設け、オンライン配信も同時に行います。ここからまた新たに、駿輝祭の歴史を再構築するための最高の一歩を踏み出したいです。

副委員長

池野 優太さん
法学部3年
(東京都立
光丘高校出身)



今年度は第33回以来の対面での開催となり、サークルやゼミナールの発表、屋外ステージ、フリーマーケット等の企画が戻ってきました。

感染症対策を講じたうえでの開催形式の中で、オンライン配信や『CMコンテスト』の企画、初めて屋外ステージを多目的グラウンドに設置するなど、新しい形式を試みることが出来たのは今年度だからこそだと思っています。

ご来場される方々も、配信をご覧になる方々もお楽しみいただけますと幸いです。

副委員長

芝崎 悠美さん
メディア情報学部3年
(埼玉県立
芸術総合高校出身)



駿輝祭対面開催にあたって、大学全体を使った謎解きゲームやオンラインで行われる縁日、屋内で行われるお化け屋敷などの新企画が今年の駿輝祭の見どころです。駿輝祭にお越しの際は是非ご参加ください。屋外ステージ企画では、ゲームの当選者にプレゼントされる景品などにも注目です。また、2年ぶりの対面開催でもあるため、駿輝祭実行委員会一同、皆様にお会いできることを心よりお待ちしております。

Q. ラートを始めたきっかけは？

入学した高校でラート競技者の先生の演技を見て、ラートに一目惚れをしました。その先生からも勧誘していただき、高校1年生からラートを始めました。

Q. ラートの魅力とは？

ラートの魅力は、逆さまになったり回転したりする感覚を、誰でも簡単に味わえるところです。また、大きい輪で様々なアクロバティックな技ができることも魅力の一つだと思います。

Q. 駿河台大学に入学した理由は？

高校でラートを指導してくださった先生との出会いにより、以前から憧れていた体育の教員を目指そうと思い、教員免許が取れる大学に進もうと考えていました。ラートの全日本大会で駿河台大学の学生の雰囲気を見て、自主性がある楽しそうだなと感じ、駿河台大学に決めました。また、沖縄では海に近い高校に通っていたので、次は山に近い大学に行きたいと考えたことも理由の1つです。

Q. どんな学生生活を送っていますか？

大学の授業は、体操に取り組み上で役立つ内容が多いので、とても興味深く受講しています。最近履修した「運動学」の授業は、運動のコツや感覚について学ぶことができ、とても面白かったです。体操演技同好会では、トランポリンやエアマットを使って宙返りやタンブリングの練習ができるので、ラートの競技力向上に役立っています。また、教員を目指しているので、小学校の学童保育でアルバイトをしたり、鈴木先生が開催するラート教室で子ども達に指導したりしています。

Q. これからの目標は？

高校2年時に全日本ラート競技選手権大会のジュニアの部で日本代表に選ばれ、NYでの世界大会を楽しみにしていたのですが、新型コロナウイルスの感染拡大で大会が中止となりました。今は1つ1つ、目の前の大会で確実に結果を出し、大学3年時に開催される日本代表選考会で世界大会への切符を獲得して、リベンジを果たしたいと思います。

また、来年の7月にオランダで行われる世界体操祭にサークルとして出場予定なので、部員と日々の練習を頑張っていこうと思います。

視野を広げる大学生活を送る

Q. ラート競技とは？

ラートの競技種目は、真っ直ぐ転がる直転、斜めに転がる斜転、ラートの上に跳び乗って跳び降りる跳躍の計3つがあり、難易度と出来栄で点数が異なります。



直転

撮影：岩井拓木



斜転



跳躍

赤坂 俊璃さんに

ラートの魅力と大学生活について

聞いてみた

赤坂俊璃さん(スポーツ科学部2年・沖縄県立宮古総合実業高校出身)が9月3日(土)~4日(日)に茨城県つくば市桜総合体育館で行われた第17回全日本学生ラート競技選手権大会で、個人総合優勝を果たしました。

駿河台大学体操演技同好会 スポーツ科学部 鈴木慶子講師

駿河台大学体操演技同好会は創設8年目を迎えるサークルです。赤坂さんは2年生ながら、全日本学生ラート競技選手権大会の個人総合において2連覇中で、大会史上初の4連覇が期待される選手です。赤坂さんは「目立つことが好きです!」「カッコいいと言われる学生で、本当に勢いのある選手です。」と躊躇なく爽やかに言うことが

できる学生で、本当に勢いのある選手です。後輩への指導にも熱心で、来年は団体優勝もできるのではないかと期待しています。今後ともぜひ応援していただければ幸いです。



2022年度秋季学位記授与式



9月29日(木)、秋季卒業者を対象に新型コロナウイルス感染症予防に配慮したうえで本学第二講義棟15階スカイラウンジにて学位記授与式が挙行されました。

社会に巣立った17名の皆様のご卒業を大学役員教職員一同、心よりお祝い申し上げます。



2022年度

第7回ハラスメント防止啓発ポスターコンテスト開催!

本学では「ハラスメント防止」の啓発活動として、毎年、テーマに沿ったポスター、標語・川柳を募集しています。2022年度はポスターを募集いたします。優秀な作品はハラスメント防止活動に活用いたしますので、ぜひ奮ってご応募ください。

- (1)ポスターのテーマ:「ハラスメント防止」
- (2)応募方法:ポスターのPDFデータをGoogleフォームにアップロード
- (3)応募資格:駿河台大学の学生、教職員
- (4)応募期限:2022年11月11日(金)



応募先:Googleフォーム

第6回ハラスメント防止啓発標語・川柳コンテスト受賞作品!



2021年度のコンテストは標語・川柳について募集を行い、一般投票結果を参考に、審査委員会にて「ハラスメント防止の啓発として適切か」、「わかりやすさ」などの観点から最終選考を行いました。受賞者には大森一宏学長より表彰状と副賞が授与されました。



👑 最優秀賞

「酔ってない」 迷惑かけて 「覚えてない」

法学部3年
浅野 彩
(埼玉県立上尾高校出身)



優秀賞

決めつけて
視野の狭さを
晒すだけ

メディア情報学部3年
佐野 七海
(東京電機大学高校出身)



支え合い
共に歩もう
同じ道

メディア情報学部3年
石井 智健
(武蔵越生高校出身)



キャリアセンターより from the Career Center



キャリアセンターでは、毎週木曜日を「木曜日は就職活動準備の日」として、2024年3月卒業予定の学部生、大学院生を対象とした講座を開催しています。

就活に“準備”は必要不可欠!?

キャリアセンターではこれまで多くの学生を見守り、支援してきました。私達の思いはひとつ。「それぞれの学生が納得のいく就職活動をしてほしい。」これに尽きます。多くの学生を見てきたからこそ言えるのは、就職活動の準備は絶対に必要だということです。本講座のプロ講師陣は、就職活動をポジティブに捉えることができるようになる指導に長けています。また、採用者側の視点もお伝えするので、本番の選考で採用担当者からの質問の意図をしっかりと汲み取りながらPRできる思考法を身につけることができます。

秋学期就職行事スケジュール(予定)

開催日	講座名	内容
9/22(木)	WEBエントリーシート作成講座	書類提出の主流になりつつあるWEBエントリーシートの作成・活用方法を解説します。
9/29(木)	就職ガイダンス④	これからより効果的な就活準備を進めるための重要ガイダンスです。
10/6(木)	就活トレーニング1	「業界研究」をテーマに就活の土台となる考え方と各業界のトレンドを紹介します。
10/13(木)	SPIガイダンス2	SPIのテスト方式ごとの注意点やその他の適性検査について解説します。
10/20(木)	就活トレーニング2	「企業研究」をテーマに自分にとって良い企業を見極めるための視点を養います。
10/27(木)	就活トレーニング3	「マナー／質問の仕方」をテーマに相手に好印象を与え、周りとの差をつけるためのポイントをお伝えします。
11/1(火)～11/26(土)	SPI秋期講習(実践編)	全12回の集中講座。夏期講習(基礎編)では触れなかった新しい範囲も講師が徹底解説します。
11/17(木)	就活トレーニング4	「面接対策」をテーマに効果的な自己PRの極意を学びます。
11/24(木)・12/15(木)	業界研究セミナー	各業界を代表する企業の採用担当者から直接話を聞くことで、業界を知る・理解する・深めるためのセミナーです。
12/1(木)	就職ガイダンス⑤	秋学期の重要ガイダンス。「自己理解／履歴書作成」をテーマに自分をj知るための視点解説とPR文章作成に取り組みます。
12/8(木)	就活トレーニング5	「グループディスカッション対策」をテーマに自信を持って臨むためのポイントを解説します。



学生選書ツアーを実施しました

夏期休業期間中の8月29日(月)、三省堂書店神保町本店(小川町仮店舗)にて本学メディアセンター学生スタッフ(SLSS)が選書ツアーを行いました。選書ツアーとは、メディアセンターに所蔵したい本を、学生が直接書店で選ぶことができるイベントです。今回の選書ツアーには8名の学生が参加しました。



学生スタッフが選書した本は、メディアセンター3階の『学生推薦図書コーナー』に並べられており、手作りのPOPも順次追加予定です。親しみ易い本や話題本がたくさんありますので、ぜひ手に取ってご覧ください。



【学生スタッフおすすめの一冊】

「クマにあったらどうするか」 姉崎 等
 「自分を変えるノート術」 安田 修
 「生のみ生のままで」 綿矢 りさ
 「わたしの美しい庭」 風良 ゆう

「両手にトカレフ」 プレイディ みかこ
 「ピンクとグレー」 加藤 シゲアキ
 「エドワード・ゴーリーが愛する12の怪談 憑かれた鏡」
 ディケンズ/ストーリー他
 「あの夏が飽和する。」 カンザキ イオリ

【選書ツアーの感想】

● 今回、初めて選書ツアーに参加しましたが、どのような本を選書して良いのが非常に悩みました。選書するにあたって、私個人がおすすめしたい本に加えて、様々なジャンルから幅広く本を選ぶことを心掛けました。メディアセンターに立ち寄った際には、ぜひ、手に取り学習や日常生活に活用してもらえればと思います。面白い本がたくさんありますよ!

● 本のタイトルや表紙だけを見て選書するといった体験は貴重でした。また、今まで知らなかった本の世界の奥深さを感じることができました。勉強や人間関係、自分自身の将来、本からしか得られない考え方に触れてみてください。自分自身と対話し、多種多様な考え方に触れ、熟思黙想してほしいと願い選書しました。



グローバル教育センターより from the Global Education Center

「第5回 English Speech Contest」を実施しました！

去る7月11日(月)4時限目に、第二講義棟4階AVホールにて、グローバル教育センター主催の「第5回 English Speech Contest」が開催されました。今年は7人の学生が出場。2017年に第1回を開催して以来、出場者の最も多いコンテストとなりました。学部、学年、出身国、経験、語学力、どれを取っても多様な出場者が、幅広いテーマでスピーチを行いました。「私の英語のスピーチを聞いてほしい！」という熱意は、全出場者に共通する特徴でした。評価は分かれ非常に僅差でしたが、晴れて Mukhammadrasul Makhmudov さんが最優秀賞を受賞しました。来年も、最優秀賞を目指して、多くの学生がよく準備のなされたスピーチを発表してくれることを期待しています！

グローバル教育センター准教授 Todd Rucynski (英語担当)



◆受賞者

Award	Student Name	Department/Grade	Speech Title
1st Prize	Mukhammadrasul Makhmudov	経済経営学部3年	Disclaimer for Putin's speech on Ukraine
Runner-up	Moe Katsuno	心理学部2年	Achieve Gender Equality
Honorable Mentioned	Asuka Arasaki	心理学部3年	American Military Base



◆「English Speech Contest」とは？

英語に興味のある学生が、実力を発揮・披露する場として、2017年から開催しています。出場者は、自分の訴えたいテーマについて、英語でスピーチ原稿を作成し、英語教員による数回のコーチングをとおして、表現や発音をブラッシュアップしたのち、観客やライバルたちの前でスピーチを行います。例年、クオリティの高いスピーチを聞いて刺激を受け、翌年のコンテストに挑戦する学生もいます。

「Summer English Session」を開催しました！

グローバル教育センターでは、毎年夏休みに「Summer English Session」と題して英語の講習会を実施しています。新型コロナウイルスの影響を受け、オンラインでの開催が続いていましたが、今年は3年ぶりに対面での実施となりました。担当教員からの報告を紹介します。

「TOEIC Part 1, Part 2, Part 5実践講座 ～とにかく問題を解こう」

グローバル教育センター 須永 隆広 助教

今年度の Summer English Session では、「TOEIC Part 1, Part 2, Part 5 実践講座～とにかく問題を解こう」と題して、400～500点を目指して、400～500点を目指している学生を対象とした講座を実施しました。3年ぶりに対面開催となったこと、および、Spring English Session の「TOEIC 基礎講座」を発展させた講座として、できる限り多くの問題を解き、かつ、素早く解答する練習をおこないました。また、秋学期に TOEIC-IP 試験の学内実施を予定しているため、本講座の後、4限の時間を利用して TOEIC-IP 試験も実施しました。今後も継続することで、TOEIC-IP 試験の受験者の増加を期待しています。

3日間のべ参加人数は、1年生6名、2年生9名、3年生4名の計19名でした。昨年度と比較すると参加人数が増加がみられました。その要因として、TOEICに関心を持っている学生が少なくないためと思われます。春期休暇も、Spring English Session を実施する予定です。いまだ新型コロナウイルスの収束が見えない状況ですが、来春も対面講座の実施を予定しています。

8/2(火)1限	ガイダンス & Listening Section (Part1)
8/2(火)2限	Listening Section (Part 2)
8/2(火)3限	Reading Section (Part 5)

「Practical English: Going Shopping / Giving Directions / Going Out to Eat」

グローバル教育センター Shawn De Haven 助教

言語はコミュニケーションのため！大学を卒業した後の現実の世界では、自分の言いたいことを理解してもらうために、様々な状況でリアルな使える言葉が必要になります。今年の Summer Session ではそのことを念頭に、英語を使わなければならない3つの場面—買い物、外食、道案内—に焦点を当て、どのように英語を使うのかを体験から学ぶ機会を提供しました。学生たちは各セッションの終わりまでに、店で買物をしたり、レストランで注文をしたり、特定の場所まで道案内をできるようにしました。レストランで注文する場面では、アメリカの有名なレストランで使われている本物のメニューを使い、また、道案内の場面では、教室を地図のとおりにレイアウトして、学生はその地図を使いながら講師をうまく道案内しました。参加者全員にとって楽しく役に立つクラスになりました。



2日目の道案内の実践の様子

8/23(火)2限	Going Shopping (買い物で使える実践英語)
8/24(水)2限	Giving Directions (道案内で使える実践英語)
8/25(木)2限	Going Out to Eat (外食で使える実践英語)

SUNDAI SPORT Information



陸上競技部 田中きよの選手 日本インカレで念願の日本一

9月9日(金)~11日(日)に、たけびしスタジアム京都(京都市右京区)で開催された第91回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)において、陸上競技部が大活躍を見せました。

10日(土)に行われた女子100mH決勝で、田中きよの選手(スポーツ科学部3年・共愛学園高校出身)が見事優勝を果たしました。

田中選手は予選、準決勝を順調に1位で通過します。特に、準決勝では5月の関東インカレ決勝において僅差で敗れた国士館大学の玉置選手に勝っての1位通過です。決勝は途中まではほぼ横一線でした。後半に田中選手が伸び、そのまま行くかと思われましたが、予選同組で2位だった順天堂大学の本田選手が最終盤で巻き返し、ゴールは肉眼では同着と思えるほどでした。結果は、13.44の同タイムですが、1/100秒以下のところで差があり、田中選手が見事、悲願の優勝を遂げました。

11日(日)に行われた男子400mH決勝では、途中3位まで行く場面がありつつも、徐々に順位を落とし、4走の後半には8位となりましたが、最後の最後に明石選手が追い上げ、ラストのストレートで2人抜き、6位を勝ち取りました。

田中きよの選手

陸上を始めてからずっと目標だった日本一。今年ようやくその目標を達成する事ができて本当に嬉しいです。終わった今はもっと余裕をもって勝たなかったとか、レース内容を思い出すと悔しい部分だらけですが、来年は悔しい部分を残すことなくもう一度優勝して、お世話になった人達に結果で恩返しができるように、もう一度仕切り直して頑張ります。たくさん応援ありがとうございました。



主なリザルト

- ▶女子100mH
優勝 田中 きよの(スポーツ科学部3年・共愛学園高校出身) 13.44
- ▶男子4×400mR
6位 駿河台大学 3:07.05
勝 優虎 (現代文化学部4年・川口市立高校出身)
志賀 優晟 (現代文化学部4年・埼玉栄高校出身)
杉田 諒 (現代文化学部4年・川口市立高校出身)
明石 昂樹 (現代文化学部4年・武南高校出身)
- ▶男子走幅跳
18位 作家 弥希 (スポーツ科学部3年・千葉県立流山南高校出身) 7m33



2022夏合宿レポート ~ラグビー部~

ラグビー合宿の聖地と言われる菅平高原(長野県上田市)に行ったラグビー部より、1年生ながら、合宿MVPに輝いた松下昂葵選手(スポーツ科学部1年・東京学館浦安高校出身)に寄稿してもらいました。



松尾勝博
ラグビー部監督
合宿総括

この合宿を通し、MVPをいただいたことは非常に光栄に思います。私は1年生ですが、Aチームで試合に出るチャンス頂きました。正直ついていけないか不安でしたが、コミュニケーションをしっかりと取ること、与えられたポジションの役割をしっかりと果たすことを目標に夏合宿に臨みました。普段と環境の違う長野での合宿では、酸素が薄く、いつものようなプレーが初日はできずに、自分の役割が果たせず、負けてしまいました。しかし、毎日試合があるので、ミーティングで試合を振り返り、直す所、いい所をしっかりとレビューし、次に繋がる反省をすることができました。2日目以降の試合では、初日の悪かった所を修正し、全員とコミュニケーションを取り指示を出せたので、DFで粘ることが出来たと思います。いつも速慮気味にプレーをしていたのですが、積極的にもボールにも絡むことができ、良いタックルも入れられたので満足いく内容でした。これから行われる公式戦でも試合に出させてもらえることを当たり前だと思わず、自分の役割をしっかりとこなし、チームに貢献していけたらと思います。

3年ぶりに夏合宿を菅平高原で実施することが出来ました。合宿では多くの刺激と収穫がありました。1つは、大学チャンピオンの帝京大学と宿舎が同じだったこと。デカさに驚きましたが、それ以上に学生の規律の素晴らしさに触れ、強さの根源を感じました。もう1つは寝食を共にすることの大切さを感じました。チーム内のコミュニケーションも増え、グラウンド内外でチームの成長を肌で感じました。今年はチーム一丸となり2部昇格を実現します。

健康相談室

からだと

こころの救急箱 ④2

カウンセラーのりレーコラム

「ルールが変わるとき」

コロナが流行し始めた頃に、これほど長くこの状況が続くと思っていた人は、それほど多くはなかっただろうと思います。

当初は「2、3か月続くのかな...」「夏には落ち着くかな...」「さすがに来春には落ち着いていくはず...」「こんな状況いつまで続くのだろう...」等々。

大きな変化に戸惑い、怒りや悲しみ、あきらめなどを感じながら、気が付けば、3年目の秋を迎えました。今やWORLDHコロナの日常が当たり前になりつつあります。

ところが、今年のゴールデンウィークあたりから、各種イベントや旅行など、徐々に各種制限の緩和のニュースが目につくようになりました。8月に入ると、お盆期間の移動制限はなく、3年ぶりの夏のコミックマーケットや音楽フェスの開催など、少しずつ以前の状況に戻りつつある印象です。秋学期から対面授業が増えた人も多いかと思えます。

アフターコロナは、多くの人が待ち望んでいたはずですが、実際にそうなり始めると、嬉しさ半分、戸惑い半分で、不安や負担のほうが強さ感じられる人も少なくありません。

日常生活のルールが変わるとき、その変化が良いものでも、悪いものでも「変化」すること自体がストレスになります。今回のコロナの流行のよう、大きなルール変更であれば尚更です。

負荷がかかりやすい時期であることを理解して、よく食べ、よく寝て、体を労わりながら、新しい生活に慣らしていくことをお勧めします。気になることがあれば身近な人に相談しながら、目の前ことに1つ1つ取り組んでいきましょう。

健康相談室カウンセラー

有田博昭